

# 平成 18 年度 装置開発技術系活動報告

松浦英雄

工学研究科・工学部技術部 装置開発技術系

## 1. 本技術系の本年度の動向

本学工学研究科の関係者はすでにご存じのように本技術系は平成 18 年 10 月、新設された赤崎記念研究館 1 階の装置開発ファクトリーおよび隣接する実験実習工場を拠点として集中化が図られた。業務遂行のために必要な各種工作機械設備の集中のみに留まらず、デスクワークを行う居室も一極に配されたことにより、真の意味で物と人の集合が完結されたわけである。このような画期的な環境整備と相まって、これまで以上に研究・教育支援業務の効率化、迅速化、さらには技術の継承、技術情報の共有化を強く視野に入れ、業務遂行上の班構成の見直しが着手された。新たな 4 班からなる業務遂行グループ群は各グループリーダーのもと、特徴ある専門技術を有するメンバーがバランスよく配備され、完結型技術者集団として構成されている。

## 2. 業務遂行における 3 つの柱

本技術系の業務の方向性は次ぎの 3 つに分類される。

### (1) 研究者と協議のもと、比較的長期に渡り遂行していく装置開発的業務

これは装置構築の企画・設計段階から技術職員が技術的立場から参画し、装置設計のアイデアを自らが創出し、研究者と一体となって業務遂行がなされ、高度で先進的要求を十分満足させる対応がとられている。

### (2) 迅速性・高いフットワークが要求される即対応型技術業務

これこそ教育・研究支援業務として欠かせないものである。工学における研究は刻々と変化していく現象や結果をもとに、早急の判断と展開が要求されるものが多い。研究者の依頼に即対応してアッセンブリやパーツを新規構築あるいは改良していく技術業務は工学研究科特有の重要な支援業務であると理解されている。

### (3) 創造工学センターを拠点とする特色あるモノづくり実習を中心とする教育支援業務

本研究科の創造工学センターは学生にモノづくりの場を提供し、安全講習会、オープン利用、各種モノづくり講座が開設されている。各専攻においても技術職員と教員が連携し、特色あるモノづくり実習を展開させている。

## 3. 具体的な業務内容

本技術系の具体的な業務内容は次の通りである。

(1) 装置機器類の設計および開発に関わる技術相談、(2) マシニングセンタ、NC 工作機械、およびワイヤ放電加工機などの各種専用あるいは汎用機を駆使して様々な金属加工業務、(3) 理化学系実験研究に不可欠なガラス、セラミックス、および半導体材料の加工業務、(4) 学生実験・実習における積極的な支援、本技術系の特色ある取り組みが評価され、「機械系教育とリンクしたモノづくり実習テーマの草案と実践」により、第 14 回日本教育協会賞（業績賞）を受賞している。

以上のように平成 18 年度は歴史的な変革の年であったことを重ねて報告させていただく。今後は実現された一極集中化のメリットを最大限に生かしながら、業務を遂行していく所存である。また予想される組織運営上の課題についても構成員が大いに議論しあい、英知を出し合ってよりよい方向を模索していきたいと考えている。次年度も本技術部の更なる発展のために関係者各位の一層のご支援、ご鞭撻をお願いする次第である。